

金曜の夜に到着、日曜朝に帰国という駆け足の日程で五年ぶりに韓国ソウルを訪れた。街路樹の銀杏イチョウが鮮やかに色つき、高層ビルの群れに彩りを添えていた。

泊まったのは、陶磁器や刺しゅうなど伝統工芸の店が集まる仁寺洞インサドンという街。

ソウル近郊に住む知人が、路地裏にある小さな旅館を予約してくれた。

土曜は翌日の早朝出発に

伝統工芸の街で

備えて早めに旅館に戻ったのだが、もう少し街の雰囲気

に浸りたくて再び外へ。ふらりと入った店には「ポ

ヤツテ



控えめながら

性の店員が日本語で話し掛けてきた。

聞けば京都で三年間染物を学んだという。洗練された商品に引かれ、ワイン専用の巾着袋フェイクレットを買った。韓国といえば原色を思い浮かべるが、それは淡い暖色が基調で、とてもすてきだった。

ジャギジャギ」（韓国の伝統的な手芸の商品が並んでいた。しばらく眺めていると、女

五年前に比べると新しい店が増え、若者でこった返していた。彼女のような若い作家の出店も、街の雰囲気

を次第に変えていくのだらう。が、伝統の技法と街の情緒は、ずっと受け継がれていくことを願う。（玲）